

2023(令和5)年12月25日 報道発表資料
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



2度の来日で日本の観客を熱狂させたギリシャの鬼才、ディミトリス・パパイオアヌー
自身が出演する濃密なデュオ作品で再び京都に

*日本公演はロームシアター京都のみの単独上演

ディミトリス・パパイオアヌー『INK』

2024年1月18日(木)～21日(日)

ロームシアター京都 サウスホール

演出|コンセプト・ディレクション・セット・コスチューム・ライティングデザイン:ディミトリス・パパイオアヌー
出演者|ディミトリス・パパイオアヌー、シュカ・ホルン

[本リリース発信元]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:儀三武、加藤、山形
電話:075-771-6051(10:00～17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

■本企画趣旨

ロームシアター京都では、2024年1月18日(木)～21日(日)にディミトリス・パパイオアヌー『INK』を上演いたします。アテネオリンピック開閉会式やヴッパタール舞踊団への振付・演出など、世界にその名を刻むディミトリス・パパイオアヌー。2019年『THE GREAT TAMER』、2022年『TRANSVERSE ORIENTATION』に続き、3回目の来日である本作ではついにパパイオアヌー自身が出演！15カ国20都市で上演され、世界中を驚かせる話題作にぜひご注目ください。

■本企画のポイント

ギリシャの鬼才／パパイオアヌーならではの過激で幻想的な表現

過去作でも西洋美術から宇宙まで様々なイメージを幾重にも折り重ね、幻想的なシーンを創り上げたパパイオアヌー。本作でも葛飾北斎、エル・グレコ、スタンリー・キューブリックと、時空を超えたイメージを引用し、パパイオアヌーならではの過激で幻想的な表現でシンプルな構成ながら人間の心情を深く描きます。

© Julian Mommert



出演者は2人、パパイオアヌーとダンサー／シュカ・ホルン

本作は2020年コロナ禍におけるロックダウン中に制作された作品でディミトリス・パパイオアヌーと、ブレイクダンスを経てコンテンポラリーダンサーとして活躍するシュカ・ホルンという年齢やバックグラウンドが異なる2人による濃密なプロセスを経て創作されました。過去の来日作品では本人の出演はなく、本作が日本初のパパイオアヌー自身が出演する作品となります。

© Julian Mommert



「水」が織り成す明暗／対立／本能と理性の放出

『INK』は、ギリシャ神話における宇宙の起源であり生命の源である水を効果的に用い、不透明さと透明さ、光と影、陰と陽といった二項対立をえがき、2人の男の色彩的、肉体的な関係性によって自分自身や相手をコントロールする内なる戦いを繰り広げます。絶え間なく流れる水は動きを導く音を生み出し、シュルレアリスムの美学に満ちた詩的世界が展開します。

© Alexander Papa



■舞台評

“パパイオアヌーの世界では、すべての要素がパフォーマーとなる。それらは背景でなく、不透明さと透明さ、光と影によって自己を表現する様々な素材による身体である。瓶の中に閉じ込めると読めない存在だが、紙の上に広げれば物語を語るができるようにインクのように。”

<https://www.sleek-mag.com/article/water-tinged-with-shadow-ink-by-dimitris-papaioannou/>

(Sleek Magazine, ベルリン/ドイツ,2023年11月8日)

“INK のような、想像力/メタファー/感情に溢れた作品を分類する適切な形容詞や言葉が見つかるかどうかわからない。観客は上演の開始からほとんどまばたきすることなく釘付けになり、見る者の感受性をかき乱すので、会場の静寂は恐ろしいものだった。”

https://elpais.com/espana/catalunya/2023-07-25/rotundo-exito-de-dimitris-papaioannou-en-el-grec-con-el-cautivador-y-perverso-espectaculo-ink.html?fbclid=IwAR3j5jyaxwOqGSgic0c9PisDfK4-ZnTr2e_uEmCzYTSScMCuynz1ci6eWtk

(EL PAÍS, バルセロナ/スペイン,2023年7月25日)

■アーティストプロフィール

ディミトリス・パパイオアヌー(Dimitris Papaioannou)

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を始め、舞台芸術のアーティストとして知られるようになる前には、画家や漫画作家として国際的に認められていた。NYでダンスを学んだのち、1986年にエダフォス・ダンス・シアターを設立。以後、フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開し、2004年アテネ五輪の開閉会式の演出を手がけ、世界的に注目を集める。その後も、ギリシャ国立劇場の柿落しを飾った『NOWHERE』(09年)、アゼルバイジャン・ヨーロッパ競技大会の開会式『ORIGINS』(15年)のほか、2019年に日本初上陸となった『THE GREAT TAMER』(17年)などを発表。2018年5月にはヴッパタル舞踊団の委嘱により『SINCE SHE』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。2020年9月、コロナ禍で自身が出演するデュオ作品『INK』を創作発表。



© Julian Mommert

シュカ・ホルン(Suka Horn)

ドイツで生まれ育ち、12歳でブレイクダンスのトレーニングを始める。ロッテルダムのコダーツ大学でダンスを学ぶかわら、バンコクの「18 monkey dance theatre」でインターンシップを経験。卒業後、スペインのR.O.P.A.で働き、ロッテルダム舞踊団の支援を受けてソロ作品を発表。2020年アテネに拠点を移し、ディミトリス・パパイオアヌーのプロダクション『TRANSVERSE ORIENTATION』に参加。同作のワールドツアーを終え、現在『INK』でツアーを行う傍ら、大学、フェスティバル、ダンススタジオで学生やプロのダンサーにダンスを教えている。



© Julian Mommert

■公演情報

ディミトリス・パパイオアヌー『INK』

日時:2024年1月18日(木)19:00開演/1月19日(金)19:00開演※
1月20日(土)14:00開演★/1月21日(日)14:00開演★

※1月19日(金)は上演終了後、ディミトリス・パパイオアヌー出演のアフタートークあり
★託児サービスあり。詳細・お申込みはロームシアター京都 WEB サイトにてご確認ください。

会場:ロームシアター京都 サウスホール
上演時間:約65分/途中休憩なし

演出 | コンセプト・ディレクション・セット・コスチューム・ライティングデザイン:ディミトリス・パパイオアヌー
出演 | ディミトリス・パパイオアヌー、シュカ・ホルン

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の
中核劇場・音楽堂等活性化)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
With the support of Dance Reflections by Van Cleef & Arpels
後援:駐日ギリシャ大使館

■チケット情報 [好評発売中]

全席指定

一般(1階席)6,000円、一般(2階席)5,000円、ユース(25歳以下)3,000円、
18歳以下1,000円

※未就学児入場不可。12歳以下は保護者同伴のうえご来場ください。

※演出の都合上、開演後はご予約のお席にご案内できない場合がございます。

※18歳以下およびユース(25歳以下)チケットは、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、免許証等)をご提示ください。

チケット取扱:

・オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

・ロームシアター京都チケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-746-3201(10:00~17:00、年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)]

・京都コンサートホールチケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-711-3231(10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)]

・チケットぴあ <http://t.pia.jp> Pコード521-432

お問合せ:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演 WEB ページ:<https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/103415/>